

がんばれミズ君ダイアリー

—ミコンずぼらな記録: その3 (2009) —

■2009年11月8日 紅葉と収穫の秋

1. 秋色深し: 紅葉の赤をタイトルバックにしたつもりで、これは紅色。パソコンの画面では画質調整によって違った色に見えるかも知れないが、『日本の伝統色 色の小辞典』(日本色彩研究所編/福田邦夫著)という色の本では紅色がもっとも紅葉の色に近いように見える。写真は昨秋に奥日光で撮った紅葉。んー、やっぱり紅色じゃないね。



2. 「紅葉色」という色名はない、らしい。平安時代の宮廷ファッションである十二単の襲(かさね)には「紅もみじ」という色目がある。

3. ひたちなか海浜公園のコキア(10月11日): 1週間早かったかも知れませんが、綺麗でした。



4. 北大の銀杏並木(10月24日): 初めて観に行きました。ここもほんの少し早かったようですが、見事。観光客が大勢。銀杏並木だけでなくキャンパスの至る所に写真スポットがあり、三脚を抱えた観光客も。もうひとつの名物ボラ並木は何年か前の台風で59本のうち3分の1が倒れたり傷んだりしたとか。新渡戸稲造の像がありました。やっぱり偉い方だったんですね。あとでWikipediaを読んだところ、彼は野球に反対だったらしい。「盗塁」など人を騙すようなルールが気に入らなかつた。

■2009年9月26日 多産ですな、風船かずら

1. 金木犀: いよいよ秋というこの時期、毎年のごとく金木犀の香りにはと「どこだろう」と振り向きませう。今日の日付のパーの色は山吹色にしたのですが、金木犀の花びらの色のつもりです。ですが、山吹色なのでしょうか。似たような色がいつかありますが金木犀の花びらの色はどれが一番近いのでしょうか。

山吹色	橙(だいだい)色, オレンジ
蜜柑(みかん)色	向日葵(ひまわり)色
鬱金(うこん)色	黄色, 蒲公英(たんぽぽ)色
中黄(ちゅうき)	マンダリンオレンジ
ゴールデンイエロー	マリーゴールド
クロムイエロー	イエロー、ジョンブリアン
カナリア	レモンイエロー

そうそう、気にはしているのだが、この辺りではまだ銀木犀は見かけていない。

2. 秋桜: 花壇の秋桜がポツポツとピンクの花を咲かせ始めたのだが、茎がのたうち回っている。可憐な花に似合わず太い茎で、伸びれば伸びるほど自重で倒れかかる。倒れたまま先端が日の光を求めて成長するので、まるでのたうっているように見える。よく原っぱで見かけるまっすぐに育っている秋桜は根が深いからだろうか。そう言えば、最近森林ボランティアで作業をしている竹林の辺りは、何だかすごく秋桜が多い。

【鬱金(うこん)色/紅(べに)色】

5. 大収穫: 朝顔は10月始めて花を終わり、葉は茶色く朽ちた。10月末風船かずらと朝顔のネットを取り外し、種を収穫。風船かずらの種は1万粒以上。朝顔の種はジャムの空き瓶3つ分。最初はたった4粒から出た芽だったのに。



5. 今頃になっても風船かずらはまだまだいっぱい「風船」をつけ続けていた。風船は最初緑色でだんだん茶色くなる。緑色の風船の中ではまだ種が成熟していない。種は緑色をしていて、ハートの部分に、人間で言うところの緒みたいなのが繋がっている。大振りだ。次の写真のように、緑から茶色に変わりつつある種も。



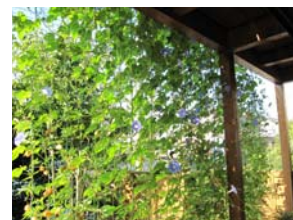
緑色の種は大振りで、まだ少し柔らかい。表面は湿り気のためにつやつやして見える。この大振りの種が徐々に「引き締まって」黒くて固い種になっていくようだ。1週間コップに入れておいたところ、緑色だった種の多くは茶色から黒に「成長」。しかし表面はシワシワで、おまけに湿っていたため(加えて床暖房が入る床の上に置いていたため)カビが生えてきた。

6. ともあれ風船かずらと朝顔の種は大収穫。欲しいという方が3人にてお送りしようと思います。ちなみに、葉に蓄積された糖やアミノ酸からアントシアニンやフロバフェンという赤、紫、黒などの色素が作られるのがカエデなどの紅葉。葉の葉緑体の緑色のクロロフィルが分解し、残った黄色色素カロチノイドが目立つのがイチョウなどの黄葉。

【褐色(かっしょく)/山吹色(やまぶきいろ)】

9月6日

●(右写真)前の写真より二十日経過。屋内から見た朝顔・風船かずら混成日除け。朝顔の葉が大きいから効果的。それにしても太くて逞しい茎だ。



●左写真は風船かずらだけのネット。風船かずらが高いところまで達していないので日光を遮断できない。だから家の壁まで日光が届いてしまいイマイチ。でもまあまあ結構日除けの役割は果たしているのではないかと。前回(8月8日)にも書いたように、いかに「涼しげ」と感じるだけで効果あります。



9月20日

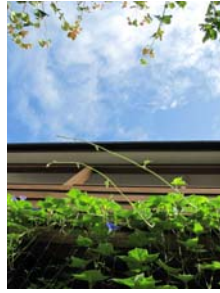
●収穫。風船かずらの風船というかぼんぼりを700個ばかり収穫。ひとつのぼんぼりは普通3粒の種を宿



3.さて、今日はやはり風船かずらと朝顔の日除けの成長ぶりを報告せねばならないです。

8月14日

●(右写真)ネットの真下から見上げた写真。朝顔は猛烈に成長し、もはや2階ベランダにまで達した。空中に伸び出した蔓が見えるでしょうか。まわりつく相手を捜して空をさまよう(屈触性というらしい)。いずれ写真の上の方に映っているヤマボウシの枝にも達するかと思ったが、さすがにある程度伸びると自重で垂れ下がるようになり、ついにはあきらめて我が身にまわりつく。



●(左写真)逆に2階ベランダから真下を撮る。2階に達した朝顔の蔓はさらに上へ伸びようとするが、それを阻止。蔓を無理矢理下向き、外向きに押し返している。それで蔓はその辺りに屯するように密集。だからその辺りは花も多い。生い茂っているように見えるが、日除けとしてはまだまだ

カスカの状態。



8月16日

手前が風船かずらばかりのネット、向こう側が朝顔・風船かずら混成ネット。朝顔と比べて風船かずらは成長が遅く、手前のネットでは中途まで到達した程度。けれどしっかりと風船は出来、茶色くなっているものも。

すから、写真のグラスふたつ分で2,000粒くらいか。ぼんぼりはまだまだ生っている。3,000個くらいは裕に行くでしょうね。そうすると種は1万粒以上。思えば一昨年知り合いから10粒ほどの種をもらったのが始まり。本当に多産です。



●種は写真のように黒字に白のハートマークが入っています。それで「幸せのお裾分け」なんて称して、「返信用封筒と切手をお送り下さい」と風船かずらの種を譲ってくれるサイトがあります。ハートマークは見ようによっては「猿顔」ですね。ネットで「猿顔」で検索すると風船かずらがヒットします。けれどどうしてこのようなデザインなのでしょう。何か意味があるのでしょうか。



●こんなにたくさん種が出来るのなら地球上風船かずらだらけになるのではないかと思うほどです。種を分けようという気持ちになるのも分かります。



●ということで、我が家も、近況報告とともに風船かずらの種を同封して30人ほどの友人に送りました。最初はひとり30粒ほど準備していたのですが、あんまりたくさんあるので40粒、50粒と増えに行きましたね。庭やベランダのある方は遊び半分ですら土に蒔いてみて下さい。送られて迷惑な方もおられるでしょう。その場合はお隣に。反響が楽しみです。

●これをお読みの方で、もし種をご入り用の方はpinawa92(アットマーク)mta.biglobe.ne.jpまでご連絡下さい。返信用封筒も切手も要りませんが、ハートマークの不思議について面白いご意見を。では。

●(追)@は正式には「単位記号」というらしい。

■2009年8月8日 “涼しげ”

1.蓮の花:(7月25日)県立歴史館に蓮の花を見に行く。見事。時期的にもう少し早ければ池の周囲の紫陽花との競演だったろうが、蓮だけでも見に来た甲斐があるというもの。去年までは早朝ウォーキングを兼ねて40分ばかりかけてここまで来た。吸い込まれそうな花だ(2007年7月22日)。

今年午前10時頃。カメラを構える人たちが10人ばかり。やはりここは写真スポットなんだ。常磐線より電車の乗って右方向を眺めているとこの蓮の池を上から眺めることができる。勿論花が咲いているのは午前中だけです。

2.ちょっと昔の暮らし:あんまり暑いので県立歴史館内へ涼みに入る。夏休み中だと言うのに、それに入場料金が格安150円だと言うのに客より職員の数の多い館内では、「ちょっと昔の暮らし」展。電気機器が普及する前後の暮らしを紹介していた。電気が家庭に入ってきたことはやはり革命的なことだったのだと実感。

3.ミズアブ:今年はミズアブが見当たらないと思っていたが、ある朝ウジャウジャいところを発見。移植ごとと割り箸で取り出す。推定数百匹。悪さはしないのだが、何と言っても気持ち悪いからね。取り出したミズアブはビニール袋に入れて日向においておけば死滅する。ミミズと同じで明かりが嫌だから、積み重なってお互いが下へ下へと潜ろうとする。そのためにもぞもぞ動いているが、そのうち熱射病で死ぬ。

4.ミミズ:前も書いたが、湿度が高くて暖かい日は、ミミズは潜ってなくて、箱の中で一番上の表面、つまり蓋を開けたら見るところが居心地がよさそう。写真のように箱の木の部分もお気に入りの場所。

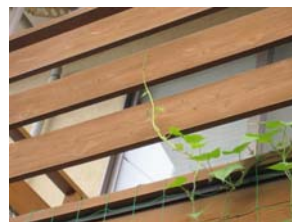
ミミズも気温が30℃を越えると活動度は極端に落ちる。とくにコンポストの中の温度は醗酵のために気温より高いから、ミミズはぐったりである。けれど今年は今までのところまだ夏バテしていないようで、食欲旺盛、1週間分の生ゴミはすっかり消えてなくなる。写真の左に見える黒いものがミミズコンポスト、つまり生ゴミから生産されたミミズのウンチだ。きれいに均(なら)された地面みたいだ。



5.“涼しげ”:朝顔も風船かずらもグイグイ伸びる。風船かずらは蔓をネットに巻き付けるのだが、隣に育って来た茎にも巻き付けてお互い寄り添ってしまう。ただでさえ葉が小さくて日を通す面積が小さいのに、これではますます日除けに役に立たない。大体やる気があるのだろうか…。でもまあ、家の中から見ると緑のカーテンが間近にあり、“涼し

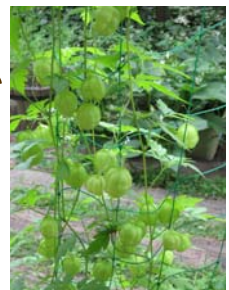
【白(しろ)／空色(そらいろ)】

6.8月初め、ついに初めての朝顔の花が咲いた。それから毎日数個ずつ花をつけている。ところでその花は上の方ばかりに咲く。そういうものなのでしょうか。お子さんの夏休みの宿題に付き合わされているお父さん、教えて下さい。



7.2Fのベランダに這い上がらないように毎朝伸びる茎を横方向や下方向に押し返すのだが、次々と上へ向かう茎が現われる。放っておいてベランダの板に巻き付かせても構わないと思うのだが、そうすると布団が干せなくなって困るのだとか。

8.風船かずらは最早種を宿している。この頃が一番きれいな色だ。この後茶色くなり、黒ずんで来た頃まで待つ、例の猿の顔をした種(2007年12月24日)を収穫する。…いや収穫せずにそのまま地面に落としておこうか。



9.庭でいつの間にか入り込んで育ったミント2鉢。勢いが衰えて来ていた。きつと根詰まりしたのだらうと、西側の細長い花壇に移植することにした。鉢から取り出してみたら、それはそれは恐ろしく根が鉢中に回っている。これでは育ちようがないだろうと思った。

西側の花壇には、以前から悩みのたねの、猫の尿のために植物が育ちにくい場所がある。そこに撒いたヒマワリは全滅。発芽せず、コスモスも殆どダメで、かろうじて芽を出しても育ちが悪い(本年6月27日)。そこで、いかに強そうミントを植えた。

驚いたことに、堰を切ったかのように新しい新緑の葉を出し始めた。植物が育つこと自体で土を浄化できないかな、なんて思っている。



げ”には見える。“涼しげ”に思えればそれで半分は成功かも知れない。

■2009年7月20日 アサガオの不思議

1.アサガオの不思議. 風船かずらに比べてアサガオばかりがすくすく伸びるものだから、少し回り道をさせてみよう、せっかくだにネットにヒシヒシとみつけている茎をネットからほどいて、横向きにしたり下向きにしたり。すると面白いことがわかった。
 2.主流の茎を曲げると、曲げた部分に近いところから枝分かれ(茎別れ?)する。曲げずにまっすぐ上に伸びている茎からは、枝分かれはしない。枝分かれした茎は上に向かって育つ。ということは、アサガオを平面状に広げようとするなら、時々主流の茎を横向きに誘導すればいいわけだ。(しかも面白いことに、枝分かれした茎の屈触性一巻き付くものを求めて振り子のように茎を運動し、何かに触れるとそれに巻き付く性質一は強くないみたいで、ネットに巻き付かない。)
 3.4本植えた苗のうち1本だけは途中で曲げずにまっすぐ伸ばしている。すでに2階のベランダ床面の高さまで達したが、ベランダの板に巻き付くと困るので、押し返して横向きに這わせている。

4. さつまいも: 先日常陸太田へ蓮を見に行った帰りに寄った蕎麦屋で、さつまいもの苗をもらった。苗と云っても途中でちよん切った茎しか見えないが、「少し深めのプランターに突き刺しておけば育つよ。小学生でもうまいこと育てる」と蕎麦屋のご主人。家に持ち帰り、その2、3日前に大根の種を撒いたプランターと大きめの鉢に、大根は断念し、さつまいもの茎を突き刺しておいた。水を遣っているだけだが葉の勢いがすばらしい。根がついた。
 5. 因みに、さつまいもは根の一部、じゃがいもは茎の一部、と蕎麦屋のご主人に教わった。だからじゃがいもは日に当てておくと、茎と同じ緑色になるのだと。こうなったら毒(ポテトグリコアルカロイド)だから食べることはできない。

6. 紫陽花: 水戸八幡宮へ。来るのが1週間遅かったという感じだ。境内にある小さな稲荷(右の写真)は、一時期カシワバアジサイに覆われるのだが、その時期は終わっていた。
 7. 着物を来た若い女性がモデルとなってカメラマンが写真を撮っていた。どこかの団体の来年のカレンダーの写真かな。ちゃっかり僕もシャッターを切ったが、肖像権云々があるからここには掲載しないでおこう。

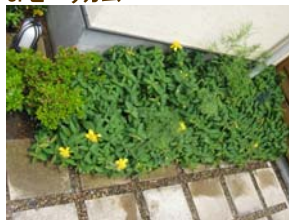
■2009年6月27日 寸詰まり大根

1.曇りで生暖かい朝はミズ箱の中は大変である。蓋をとってみると“地表”にウヨウヨ現われている。何十匹もが絡み合って玉になっている。蓋の裏側にも張り付いている。



2. 4月29日の日記に発芽の写真を載せた大根「極早生ミニ30日大根」。2ヶ月を経て収穫。んんん…、プランターでできると種の袋には書いてあった。それにしても浅かったかな。もともと下ぶくれの品種らしいが、ここまでとなると大根君の苦悩を感じます。でもまあ大根の味に無頓着な私には、水分が少々少ないけれどほんのり辛味もあって、おろし蕎麦にはイケましたよ。

3. ヒペリカム



以前カイガラムシにやられてヒペリカム・カリシナムが枯れてしまった(「■2002年秋 カリシナム全滅」参照下さい)。根こそぎ抜き取ったつもりだったが、一部の根が生残り少しずつ成長、繁殖し、ついに今年花を咲かせるまでに回復。メダタシ。

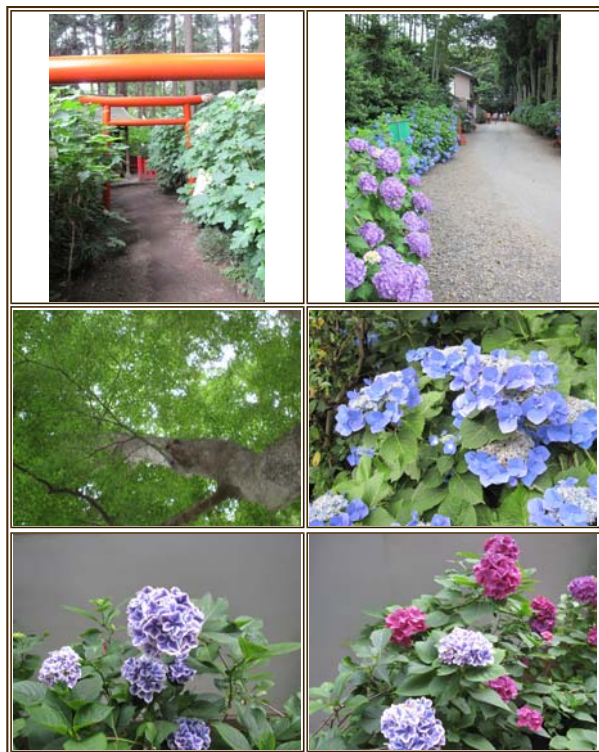


一方、2008年9月7日の日記に書いたように、昨夏植えた4株のうち1株だけは残って今年花を咲かせました(左)。明らかに上の写真とは種類が違う。今年はまだ一度トライ(左下)。那珂市の花木センターでヒペリカム(キンシバイ)の苗二つを買って植える。上の2種類とも違う種類。交互にダリア(ライチ)苗を三つ。



4. 学名ヒペリカム(Hypericum)、和名「オトギリソウ」
 週間朝日百科『植物の世界』第7巻「裸子植物／双子葉植物」より:
 「夏休みにちよと早起きして、日当た

【納戸色(なんどいろ)／新橋色(しんばしいろ)】



【銀鼠(ぎんねず)／茄子紺(なすこん)】

- ・ オトギリソウ(ハイオトギリ、イワオトギリ、タカネオトギリ)
- ・ トモエソウ(トモエオトギリとも)
- ・ ビヨウヤナギ(美容柳／未容柳／ビジョヤナギ／美女柳／ビヨウオトギリとも、左中段写真)
- ・ キンシバイ(金糸梅／バツルムとも、左最下段の写真)
- ・ ヒメオトギリ

カリシナム(左最上段の写真)が『植物の世界』に掲載されていない。アーロンズピアード/ローズオブシャロンのことか。

5. 今年は風船かずらと朝顔の日除けを画策。庭に面する側にネットを貼りました。これに朝顔と風船かずらを這わせませす。1.8m×3.5mのネットを3枚。2階のベランダには角材を這わせてネット上部を固定。ネットの下には朝顔4株と風船かずらの苗多数。
 右の写真は実は6月14日に撮ったもの。以後2週間のうちに朝顔は数十cmに成長しネットを這い上がっています。
 風船かずらは成長が遅い。今月中旬の10日ほど気温が結構低かったからかも知れませんが、何と言ってもポットで発芽させ苗を移植した「ショック」が大きいのだろう。もともとは雑草なんだから、苗を育てるなんて上品なことをしなくても、直播き、それも土表面に蒔くだけでも芽を出すだろう。数打ちや当るでいいではないか。実際、移植した後、残っている種をバラバラと。(今までの面倒は何だったんだ。)



6. 最近花壇にやもりをよく見る。やもりはは虫類の下の分類。英語ではgekkoという。いもりは両生類。英語ではnewt。(Wikipedia)お腹が鮮やかな赤色をしている方がイモリで、全体に黄色っぽい色をしている方がヤモリ。実は、イモリはフグと同じ成分の毒を持っていて、お腹の赤色は他の生物に毒を持っている事を知らせるための警戒色である。生息場所は、イモリはカエルと同じ両生類で主に水中。井戸で害虫を食べてくれることから「井戸を守る」でイモリ。一方、ヤモリはヘビと同じハ虫類で陸上で生活し、家の蚊や蛾を食べてくれるので「家を守る」でヤモリ。

7. アズーロ見事咲く…。でも玄関に置くには今いち寂しい。その他報告事項:





筋が入っていれば、それはまずオトギリソウに間違いない。β300種ある。

りのよい草原を歩いてみると、地面から真っすぐに伸びた茎の先端に、星形の黄色い花が多数ついているのを見かけることがある。さらに近づいてみて、その花弁に黒い点や

- ・ みょうがが増えた。みょうがの森。ドクダミも凄い勢い。仲がいいのでしょうか。
- ・ 物置箱の2枚の蓋のうち1枚は完全に割れ割れ。それからミミズ箱の1番上の枠は腐り穴が開いてしまった。両方ともこの夏に直そう。
- ・ 西側花壇にはヒペリカムとダリアの隙間にミニヒマワリとコスモスの種を蒔く。猫尿のせい半分くらいは発芽せず。

■2009年5月9日 子供の日だから

1. 今朝も玄関前でミミズをみつつける(右の写真: 下方の白い水道栓の上)。それも今度は子供のミミズだ。こんな小さな子が庭の奥からはるばる這ってきたとは思えない。ここいらに繁殖地があるのだろう。
2. それから、こここのところ、小さな、おそらく子供のナメクジが這っているのをみかける。その時期なのか。どこの世界も子供の日のようです。

 mimizu-diary.files/090509ko-mimizu.jpg



3. 玄関の白華現象(エフロレッセンス)がとまらない。写真上から2段目。
4. 削り取るのが最も手取り早い。エフロは、タイルの固定に使ったセメントと雨水が接触して溶け出したカルシウム(Ca(OH)2)が空気中の二酸化炭素と結合して出来た炭酸カルシウム(CaCO3)だから、強酸で溶かせばよい。これまで垂れて固まっている部分に市販の除去剤(エフロ除去剤)を塗りつけて落とそうとしていた。シュワシュワと炭酸ガスを発して溶ける。確かにそのときは除去できるのだが、翌日見るとまた垂れて固まっている。

5. あるときふと気が付いた。エフロ除去剤は強酸なので、使った後大量の水で流してその辺りを洗う。すると、セメント成分が流れ出る箇所、つまりタイルの隙間に水が入り、さらにセメント成分を溶かす。それが流れ出て二酸化炭素と化合して・・・。

6. そこで、垂れて固まっている部分を削り取ることにした。実は以前にも試したことがある。ドライバーはタイル表面を傷めてしまうからやめ。タイル表面は多少デコボコしているのでサンドペーパーも効果はなかった。そこで今度は台所にあったステンレス製品磨き粉(シリカ・アルミナ・セリウム系珪物)を使ってたわしでゴシゴシとこすった。これは効果がありそう。これをしばらく続けてみよう。

【鶯茶(うぐいすちゃ)／山吹色(やまぶきいろ)】

7. 先日アラジinstローブを片付けたとき、タンク内に残っていた小さめの洗面器にはほぼ一杯分の灯油を庭の枕木に吸わせた。枕木はもともと、たぶん腐らないように、タールを吸わせてある。灯油も吸ってくれる。あの程度の灯油を吸わせても表面に浸み込むだけで防食の効果はないだろうが。その後晴れた日の庭ではブンと灯油の臭いがする。

それから、試しに枕木の間の土の部分に灯油を撒いてみた。雑草が枯れるかどうか。1週間ほど経つが枯れる気配はない。植物は灯油を吸わない?

8. 七つ洞公園へ。宣伝するわけではなく、知人ぞ知る公園。老若釣り人あり、ベンチで和む夫婦あり。子供連れの家族は脇の遊具のある広場へ。泳ぐ白い蛇発見。青大将だろうと近くの人。



 mimizu-diary.files/090509oyoge-aodaishoukun.jpg

9. 「秘密の花苑」は相変わらず手入れが行き届かなくて一部はスギナに覆われつつある。花苑中心のアーチは本来薔薇で覆われているものだろうが。設置してある花マップの通りなら100種類以上の花が植えられ、さぞかし賑やかでそれに貴重だろうと思う。公園は入場無料だし、しょうがないか。ボランティアに任せると自分の好きなようにやっちゃうしねえ、日本の場合。

 mimizu-diary.files/090509hanatare-lion.jpg

10. 花苑入口のライオン像は鼻垂れだった。公園は牛の臭いがきつかった。田畑に隣接しているから肥料の臭いかな?

11. 我が家のベランダの物置箱の蓋はとうの昔から反っていたが、ふたつのうち片方がついに割れた。蓋の役割を果たさない。

■2009年4月26日 湿った暖かい朝は・・・

1. 予報に逆らって朝は曇っていた。そのうち、暴風雨になるかと思う雨が落ちてきたが、正午頃からはついに空も天気予報に屈し、快晴。風は強いが花粉症の人はマスクをはずしつつあるよう。松ならよくて杉ならダメというのも花粉症患者ではない僕にはよくわからないが、まあ、確かに松の花粉は粒がでかくて、黄砂みだいた。(黄砂、間近で見たことないか・・・)

 mimizu-diary.files/090426VW no maede.jpg

2. (一)で、暖かくなると、ミミズ箱から出て外の世界を探索する輩も現われる。庭の向こうの隣の駐車場で先日から2、3匹見かけていたが、ついに玄関に現れる。2匹のうちの一匹。我が家の敷地の対角線を移動して来たことになる。ミミズ箱に返してあげたが危険を冒して先へ行きかけたかな。向こうに見えるのはお向かいのVW。

3. 暖かくて湿度の高い日は、ミミズたちは無防備である。箱の蓋を開けると右上の写真のとおり。コンポストの地表に現われている。何匹かは箱の上縁へ達し、そしてそのうち外の世界へ。黄色く見えるのは何かの芽。何だったか忘れた。大豆?しょっちゅう現われる。

【常磐色(ときわいろ)／緑(みどり)】

 mimizu-diary.files/090426muboubina mimizu1.jpg

 mimizu-diary.files/090426muboubina mimizu2.jpg

4. 4月19日に「葉に白い斑点が出来て枯死した、防犯用・防風用ヒイラギ植え替え」と書いたが、なんと、ヒイラギは生きていた。この1週間で芽が出、葉が育ち始めた。しばらく様子を見よう。

 mimizu-diary.files/090426ikiteita hiragi.jpg

- その他、
- 3月中旬にコニファーと同時
 - 鉢植えから地植えにしたプリムラ・アクエリアスと花かんざしのうち、プリムラ・アクエリアスは枯れたね。未だ猫尿の執念健在か。
 - 電機店で景品にももらったうづぎ(ひめうづぎ)を西側花壇に地植え。
 - コープの配達のお兄さんの一生懸命さに心打たれて買ったアズニロ・コンバクト(そうそう、SUNTORYの製品だとき)のスカイブルーとラベンダー・シャワーを鉢に移し替える。手間がかかりそう。
 - ダイコンの芽、確かに成長している。

5. HPを全部読み直してリンクをチェック。いくつか修正。

■2009年4月19日 In the middle of spring

【萌黄(もえぎ)／萌葱色(もえぎいろ)】

1. ここのところ快晴続き、おまけに初夏かと思うくらい暑いくらいの日もあって、植物はここぞとばかり一斉に目立とうとしている。気付いて見ると…、

新緑。この季節の色だ。「青々」。成長の最先端の色。

 mimizu-diary.files/090419aooa.jpg

はなみずき。早くも花が。

 mimizu-diary.files/090419hanamizuki.jpg



そしてさあイチゴ。花を咲かせ始めた。そしてまもなく赤い実をつけ始める。もともとプランターで育ててはみ出したもの。広がる広がる。

 mimizu-diary.files/090419minikui-tsutsujinoko.jpg

我が家に一株だけある躑躅。勢いがいいが形が不細工。みにくい躑躅の子。

2. 大根の発芽。一昨年ミニトマトを育てたプランターに、一昨年買って余っていた30日ダイコンの種を蒔いた。土はミニトマト用だったので、去年育った風船カズラをみても栄養が残っていると。ダメもとで撒いた種だが思わぬ発芽。まあ、問題はこれからですが。今までまともに育ったことはない。ヒヨロヒヨロばかり。

 mimizu-diary.files/090419daikon-hatsuga.jpg

3. ビオラますます。

 mimizu-diary.files/090419viola-masumasu.jpg

4. 鉢でもらったコニファーの苗を植える。クリスマスツリーに出来るまでに何年かかるだろうか。(→)

5. 今後の予定 (HPIに書くこともないのだが)

- ・ 去年猫の糞尿でやられたヒペリカム・カリシナム再挑戦(右の写真のコニファーの廻りはヒペリカム。こちら辺りは猫にやられなかった。)
- ・ ヒマワリ
- ・ 風船かずらのサンシェード作り
- ・ 葉に白い斑点が出来て枯死した(2008年10月19日に葉を落として裸にしていた)、防犯用・防風用ヒイラギ植え替え



■2009年3月8日 吐く息の光

1. 今年初めてのダイアリー。ご無沙汰いたしました。ようやく晴れた春らしい朝。

2. 晴れてはいるけれど寒いので生ゴミは凍っています。さすがに冬の間はミズ君はチンとして食欲はない。それでも毎週末に1週間分溜まった生ゴミを与え続けました。晴れても今週のような寒い週は生ゴミは「手つかず」で凍っています。ミズ君は食べることはできません。しかし凍っているので匂わない。



3. 塀の隙間から覗く朝日をパシャリ(→)。そこへ息を吹きかければ…(↓)



太陽光線の道筋がくっきり。チンダル現象ですな。(本来液体中で見つけられた現象だが、気体中でもそう云うんだろうね。)

【ruby red/紅梅色(こうばいいろ)】

4. ところで、試しに鉢植えから移植して地植えしたビオラはこれでもかといわんばかりだ。これほど世話を掛けない花はない。寒い冬に庭仕事をしなくても、咲く。えらいと思う。花々たちが沈黙する冬に、世話をされなくとも花を咲かせる能力を身につけた。冬は独壇場である。というわけで(おそらく)この家にもある。



広告募集